

地質サイトカード

カードNo.		C-⑥-6	通しNo.	48	作成日	2025/3/10
サイト名		きまちいし いしきりばあと 来待石の石切場跡				
基本情報	エリア	南部丘陵地 探訪サイト				
	区分	☒ 地質・地形	☐ 生態	☒ 文化		
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☒ 観光・ツアー		
	所在地	松江市宍道町来待一帯				
	アクセス	山陰道 玉造ICから約10km、約15分。来待ストーンミュージアム敷地内に大きな採掘跡がある。				
	周辺施設	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(5台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☒ 観光施設(来待ストーンミュージアム)				
	看板整備					
	留意点					
保護・保全	法規制・関連団体等	「出雲石灯ろう」は 経済産業大臣より「伝統的工芸品」として指定				
	保全メモ					
サイトの解説	みどころ	島根県を代表する石材のひとつ。日本地質学会の県の石に選定された。				
	地質・地形	来待石は1400～1500万年前の浅い日本海で形成され、安山岩の岩片を多く含む塊状凝灰質砂岩で、大森層に属す。日本地質学会により、2016(平成28)年に島根県の石に選定された。松江市玉湯町から同宍道町にかけての山間地に、来待石の石材を切り出した採石場の跡が数多く残っている。モニュメントミュージアム来待ストーンの広場もこれらのうちのひとつである。来待石は一見すると均質な中～粗粒の砂岩だが、よく見ると、構成粒子の粒度の違いなどが見えてくる。来待石からはまれに化石もみつかるといわれている。今までの最も貴重な化石はパレオパラドキシアの下顎化石で、この動物は、中期中新世の頃に水中に棲息したカバのような姿をした絶滅哺乳類(束柱類)と考えられている。他にもヒゲクジラの骨化石、イタヤガイの仲間の化石や、ムカシオオホオジロザメの歯の化石など暖かい浅海に生息していた生物の化石がみつかった。				
	歴史・文化 生物・生態 等	地質学的には新生代新第三紀中期中新世の大森層に属す。古くは古墳時代から石材として利用されたといわれている。江戸時代には松江藩の松平直政公がお止め石として藩外への流出を禁止し、松江藩の特産品としてから「出雲石灯籠」のブランドができたといわれている。 来待石は、石質が軟らかく、切り出しや加工がしやすいのが特徴。また、風化が速いため、切り出した直後は灰色がかかった色調であったものが、短い期間で、黄褐色の古めいた風情ある外観になっていく。苔も付きやすく、日本庭園をつくるのになくてはならない素材のひとつといえる。 周辺には、特定植物群落である「美龍山岩屋寺の照葉樹林」、「上来待の照葉樹林」、「菅原の照葉樹林」がある。				
写真・図等						
参考文献		島根地質百選				